

図の上部には、次の口上がある。

中村歌右衛門

一世二代御名残

口上

御町中様残暑の御障りも

不被為在御機嫌克被遊御座

大悦不少奉存升

然処此度初日を

差出し候処早朝より

斯様に御賑々敷

御入来被成下

候の段座元

勘三郎始メ

惣座中は

不申及別而

私儀はいか斗

難有仕合

奉存升

扨三津五郎殿

申上呉られ升

通り私が身分にムリ升七ヶ年以前

御当地え罷下りましたる処誠に

難有御恵み御ひるき御取立に

預り又昨年大坂表え罷下りまし

たる処殊の外成大病相煩ひ

まして私に壱人の母がムリ升ル

これが申升は其様に多病に

成ては甚心遣ひじやに依てどふぞ

此商売止めて呉と申聞ましたれ共  
私幼少よりこれが好でムリ升故  
只今迄難有御目見を仕ましたる処  
段々多病に相成ましてムリ升れは  
度々代りにて御覧に入却て御機嫌  
害ひましてはいかゞと誠に一世一代と  
申もおがましようはムリ升れども  
唯今迄御ひゐき御取立に預り  
ましたる万々が一の御礼に相勤  
御覧に入奉り升様にムリ升  
只今迄京都大坂より下り  
ましたる役者どもの  
内にも私ほど  
御ひゐき

御取立に

預りまし

たる者は

ムリませぬ故

誠にお江戸の

御恵みは寝ても

覚ても忘れは仕ませぬ様に

ムリ升扱是に居り升中村松江儀に

ムリ升これ逆もいまだろく／＼に

御馴染もムリませぬにお江戸

生立の役者衆中同様に御取立に

預りましたる段難有仕合に

奉存升る是は御当地に残し

置升ル儀にムリ升れば相替らせ

られず御ひみき願ひ上升  
様にムリ升扱東蔵儀は私も  
大坂え帰り升ても一世一代の  
相勤故参る様に申まし  
たれ共一円合点いたし  
まぜずお江戸の土と成と  
申ますればいつまでも  
とぼけた江戸子と  
相成升ルやりに  
ムリ升るまだく  
私が御礼なか  
言葉につくし  
がたふムリ升れども  
残暑の砌にムリ升れば  
永々とは  
御退くつ  
まつは  
御当地  
御名  
ごり  
一世  
一代  
舞台  
舞おさめ升と申  
口上角から角まで  
すらりごと  
御間済のほど  
偏に  
奉希上升ル